

大学の世界展開力強化事業（平成23年度採択）中間評価結果

大学名	京都大学
タイプ	A-I I
構想名	強靱な国づくりを担う国際人育成のための中核拠点の形成－災害復興の経験を踏まえて－

◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

(総括評価) A	これまでの取り組みを継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
(コメント)	
<p>本プログラムは、震災復興という日本とASEAN諸国が直面する重要課題にテーマが絞られており、各国の人材育成ニーズに合致している。学生及び教員向けの交流プログラムを盛り込み、双方の成長を狙っていることや、座学だけでなく実際の災害現場、防災センターの見学などを含む実践的な内容となっていることは、特徴的である。</p> <p>質保証の面では、日本とASEAN諸国の単位認定制度や、アカデミックカレンダーの相違などの調整について大学間での検討を行うとともに、ITを使った遠隔講義などの手段による工夫がなされている。また、英文講義テキストについても既に5種類を発刊し、学生の理解を深める取組も進められている。</p> <p>外国人学生の受入については、きめ細かな対応がなされている。また、日本人学生の派遣についても、事前ガイダンス、保険の付保、現地での教員の滞在など高いレベルでの対応が図られている。</p> <p>情報公開については、様々な手段により行われており、アジア諸国への積極的な情報発信の結果として、新たに台湾成功大学から本プログラムへの参加要望が出るなどの成果も見られる。</p> <p>学生の派遣及び受入数について、平成24年度には当初計画どおり日本人学生15名の派遣、タイ人学生15名の受入を実現しており、日本人学生の語学力についても基準としているTOEICスコア700点以上を14名が達成している。若手教員の派遣については、計画を下回ったものの、日本から派遣された6名がタイで講義を行っている。</p> <p>以上、プログラムの構築、学生の相互交流、若手教員の相互交流研修等について、計画はおおむね順調に実施され、成果を上げてきている。また、初年度の活動で明らかになった課題についても的確に認識され、対応が講じられている。大学全体としてASEAN諸国との連携に向けた国際化の努力を進めており、他の事業との連携も考慮した対応を行うなど、プログラムが着実に遂行されていることは評価できる。今後も計画に沿った活動を展開し、成果を上げていくことが望まれる。</p>	